

発達を助けるホルモン 母体の異常が胎児に影響

甲状腺は頸部けいぶ前面にチヨウが羽を広げたような形の内分泌器官で、甲状腺ホルモンを産生します。甲状腺ホルモンは胎児、乳幼児、小児の成長、神経の成熟を促すために不可欠なホルモンです。基礎代謝を亢進こうしんさせ熱を産生する、心臓血管の働きを強める、糖、脂肪の代謝を刺激する作用があります。

先天的に甲状腺ホルモンが欠乏すると、重大な精神・神経障害、成長障害を引き起こすため、生後5、6日目に赤ちゃんの足の裏

から血液をろ紙に取り、甲状腺のスクリーニング検査を実施します。出生3千〜4千人に1人の割合で欠乏が発見され、治療を受けています。

妊娠中のチェックを

甲状腺異常は成人女性にとつてありふれた病気ですが、妊婦の場合、服用している薬剤や母体の甲状腺異常と関連する抗体が、胎児の甲状腺障害を起こすことがあります。妊娠中のヨード製剤による検査、ヨードを含むつがいのやり過ぎなどでも欠乏が起きる場合があります。

モンの影響で軽い甲状腺機能亢進状態になり、母体の甲状腺ホルモンが胎児に移行して胎児の神経成熟を促していることが分かっています。胎児が自分で甲状腺ホルモンを産生できない場合は、母体からの甲状腺ホルモンでその影響を小さくすることができます。そこで妊娠中、母親の甲状腺機能をチェックすることが重要になります。

産後、甲状腺に何らかの異常をきたす母親は約20人に1人の割合といわれています。甲状腺ホルモンの異常があると、産後の肥立ちが悪くなり、精神面で不安定になり、育児に影響が出てきます。

当院では乳児検診の際、母親の甲状腺も同意を得てチェックしています。妊娠中および産後の母親の甲状腺は子どもにとっても大切なものです。甲状腺チェックを忘れずにしましょう。

(NPO法人ながのこども
の城理事 あらかわ子ども
も医院・新川一雄)

